

他誌掲載論文抄録

温泉・公衆浴場、その他の温水環境におけるアメーバ性髄膜脳炎の
病原体 *Naegleria fowleri* の疫学と病原性発現に関する研究
温水環境における高温耐性アメーバ類の実態調査

八木田健司, 黒木 俊郎, 泉山 信司, 下河原理江子, 小村 麻子, 古屋 宏二, 齊藤
紀行, 佐々木 美江, 不二崎順二, 川瀬 雅雄, 長 則夫, 山岡 一清, 山内 昭則, 降
井佐太郎, 中嶋 洋, 柏木 淳子, 烏谷 竜哉, 田栗 利紹
厚生科学研究費補助金(生活安全総合研究事業) 分担研究報告書, pp9-55, 2002

高温耐性を有するアメーバ類の温水環境における生息実態を調査した。全国より 14 地
域を選択し、温泉浴槽水や浴槽温排水、工場温排水よりアメーバ分離を行った。施設総数
307, 試料総数 827 を調査した結果, 401 試料より 1,996 株のアメーバを分離した。全体と
して *Naegleria* をはじめ 8 属のアメーバ類が検出された。検出率は試料により異なったが,
浴槽水よりも排水系試料の方が高い傾向は明らかであった。特に *Naegleria* の検出率は浴
槽水で 15.6 %, 浴槽排水で 46.6 %, 工場排水で 14.9 %であった。アメーバ数の定量的解
析からは、試料中のアメーバ数は排水系試料の方が多傾向にあり、*Naegleria* の数に関し
ても同様の傾向が見られた。水温, pH, 泉質等の水質学的条件, また清掃・消毒等管理
状況とアメーバ検出の関係は明確ではなかった。その中で *Naegleria* の生息温度の下限値
は 10 °C前後で、高温耐性 *Naegleria* であっても低温環境にまで適応して定着可能である
ことが明らかとなり、潜在的感染源の範囲が広いことが示された。さらに分離方法の効率
化を図り、各地を精査し多数の分離株を得ることにより *Naegleria fowleri* の検出の可能性は
高まるものと考えられた。